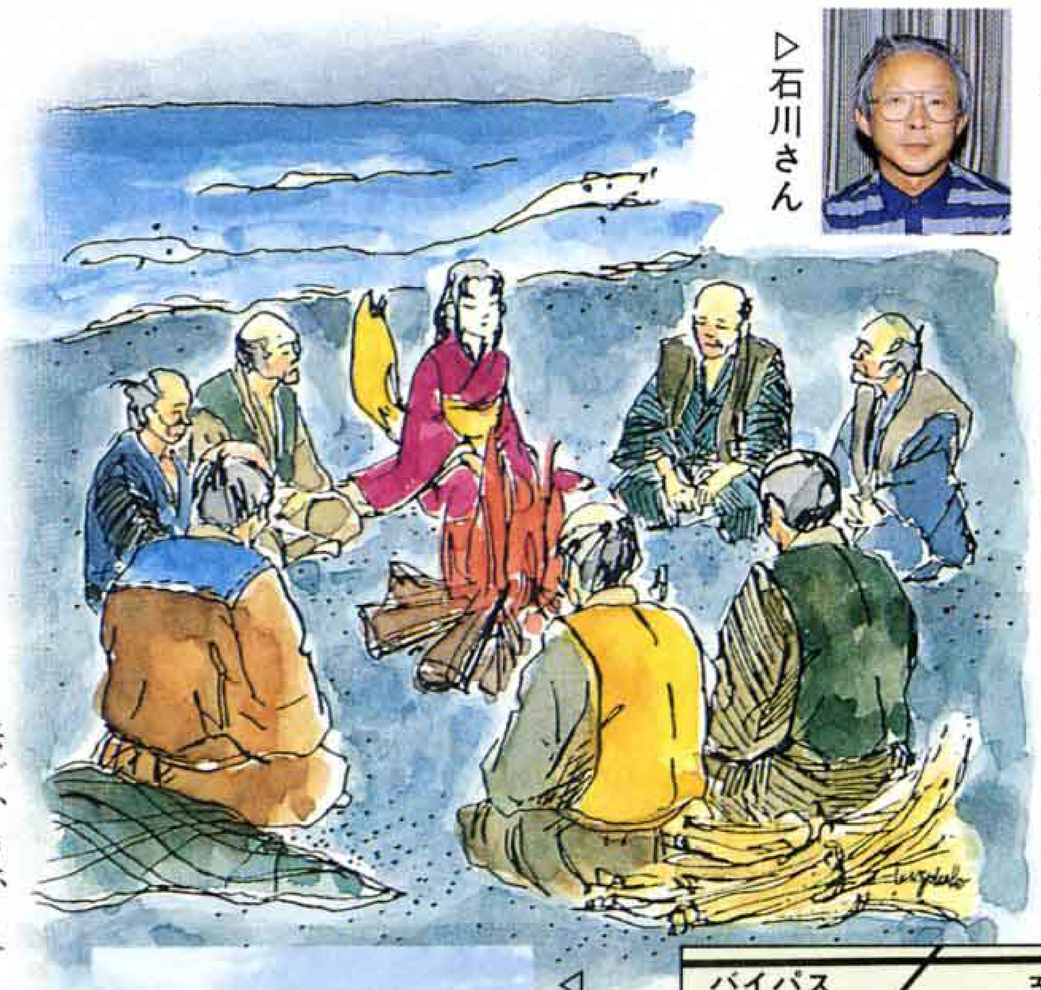
ふるさとの昔話

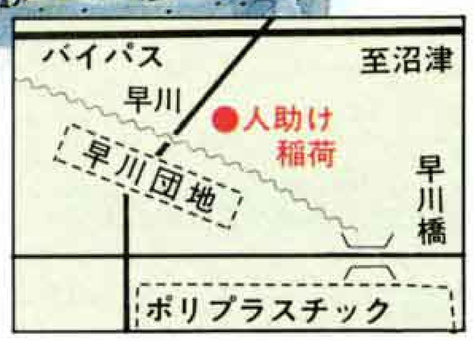
千鳥町の 人助け稲荷のキツネ

富士南地区の千鳥町に「人助け稲荷」と呼ばれる小さなほこらがあります。今回と次回は、千鳥町の石川雅也さん（五十四歳）に伺った、ここのキツネのお話です。

▷石川さん



◁人助け稲荷



命を救う稲荷さん

人助け稲荷の周辺は、稲荷島と呼ばれています。今は小さな林ですが、昔はうっそうとした森があり、キツネが住んでいました。森は夜でも目を凝らせば見え、津波や洪水で逃げ遅れた人は皆、この森へ逃げました。

森の松につかまれば助かったので、稲荷さんをいつしか人助け稲荷と呼ぶようになりました。

一人多いぞ……

昭和の初めごろのことです。浜で、夜、五・六人の人が投げ網を打っていました。寒い夜でしたので、それぞれが持ってきたわらを河原木と一緒に燃やしては、暖をとりました。

パチパチとわらはよく燃え、わらに残っていたもみがはぜら菓子のようになって、香ばしい香りを漂わせました。

ふと気がつくと、薄暗い中で人が一人多くなっていました。

「一人、二人、三人…おや」

なんと若く美しい女の人が仲間になっているではありませんか。

火に当たっていたみんなは、なぜかほっとして話し込み、楽しく過ごしました。

はぜら菓子が好き

「さて、もう一網打つかい」

そう言ってみんなは、女の人を残して海に向かいました。何げなく振り返った一人は、思わず目を見張りました。「おい、見ろよ。ありゃあイッケンだぜ」

指さす方を見ると、女の人が着物のすそを乱し、頭を下げて・・・はぜら菓子を食べているではありませんか。そして、もっとよく見ると、それはキツネでした。・・・キツネは、もみのはぜら菓子が好物だったのです。なお、イッケンとは、田子浦でキツネのことを言ったのでした。

あなたの生活便利メモ❽

歴史を学びながら健康に

▷平林さん（左）米山さん

自動車は毎日の生活に欠かせない物になっています。でも、便利だからといって車ばかり使うのは考え物。体力の衰えは足から始まります。

市は、五年前から「歩く健康づくり一万歩コース」をつくっています。これは、地域の名所旧跡を約六キロのコースにしたもので、地域再発見をしながら健康づくりができるものです。

文化体育課の平林主事と米山指導主事は「現在、伝法ふる里コースを初め、各地域の特徴ある名前で、今泉・吉永・岩松・元吉原・田子浦地区につくられています。文化体育課や各公民館にパンフレットがありますので、御利用ください。ほかの地区も順次整備します」とPR。

◁パンフレット

韓国の正月料理 チゲ

石坂の勝亦英美さんは、韓国生まれの釜山育ち。日本に来てから、4年目になります。韓国の正月料理を紹介していただきました。

韓国のお正月も、親類縁者が集まって祝います。そんな時つくる料理は、〝チゲ〟。韓国語で、なべのことです。

豆腐、アサリ、カキ、ネギなどの材料を入れて煮るだけですが、ひと味違う韓国風は、つぶしたニンニクや粉にひいた唐辛子を、色が変わるくらいたっぷりと入れることです。味つけはお好みで。

辛いチゲは、おもちの食べ過ぎや二日酔いで弱った胃に効果がありそう。

こちら編集室

明けましておめでとうございます。「広報ふじが来ると、こちら編集室から読むよ」という声をよく聞きます。本音や裏話があって気楽に読めるからでしょうが、これだけの原稿でも、とても苦しむことがあります。とはいえ、読まれているのは、うれしいもの。ついでに、前の方も読んでもらえると、もっとうれしいなあ。本年もよろしくお願いします。

発行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123
編集・総務部広報広聴課
人口　225,634人　男　112,304人　女　113,330人
世帯数　67,174世帯
（12月1日現在）